

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	栃木県
都道府県名	9

【 】

*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	岩舟町立岩舟中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	34
学級数	7	5	6	2	20	
生徒数	223	198	211	7	639	

研究の概要

(1) 研究主題

「確かな学力」を身に付けさせる学習指導の工夫
～ 自己学習能力の育成をめざして ～

(2) 研究主題設定の趣旨

「確かな学力」は、「生きる力」の「知」の側面であり、文部科学省『2002年4月新学習指導要領 START』によると、次のような総合的学力としてとらえられている。

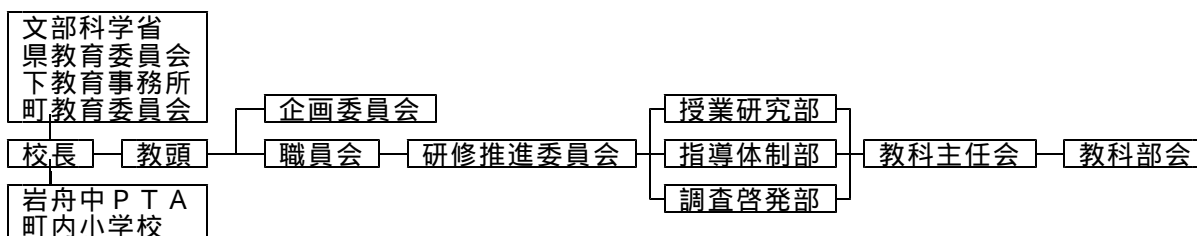
- ・知識・技能を身につけ、活用する力
- ・学ぶことへのやる気、意欲
- ・自分で考える力
- ・自分で判断する力
- ・自分で表現する力
- ・問題を解決し、自分で道を切り開いていく力

そこで、本校としては、自ら目標を立て、自ら課題を追究し、自ら学習を客観的に見つめ、改善するなどの「自己学習能力」の育成を図ることを目指して、「確かな学力」を身に付けさせる学習指導の工夫について研究を進めることとした。

また、こうした自律的な学習と相互に関連の深い基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、指導方法や指導体制など個に応じたきめ細かな指導の充実を図ることを通して「確かな学力」を育てていきたいと考えた。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

個に応じた指導のための教材開発

ア 「自己学習能力」の育成をめざした、「確かな学力」の中で特に身に付けさせたい学力に視点をあてた授業の研究・実践（教科学習の特性を生かして各教科別に）ねらい

本校として育てたい生徒像は、「自己学習能力を持った生徒」である。

自己学習能力とは、学習の意義や価値を理解して自らの目標や課題を設定し、その目標や課題を自らの方法によって追究したり解決したりすることができる力である。

「自己学習能力」を育成するためには、「自己目標の設定、主体的な学習活動、自己評価 学習の問い直しと改善」の各学習過程において、教師主導から学習者自身の主導へ自己学習のステップを段階的に進めなければならない。大切なことは、教科や学習内容の特性と生徒の実態を考慮して、各学習過程の各ステップの組み合わせを適切に選択し、「自己学習能力」を育成していくことであると考える。

イ 各教科の実践例

社会科の実践

(ア) ねらい

・グループごとの課題追究や追究内容の発表会を通して、社会的事象に対す

る多面的・多角的な見方・考え方や課題追究の方法を育成する。

(イ) 指導の実際 1年生「栃木県のイチゴ」

- ・考える視点を生徒とともに考え、グループごとの追究課題を設定する。
- ・課題に適した資料を選択し、グラフや表にまとめ、グループ内で考察しまとめる。
- ・各グループごとに、追究課題について調べて分かったことを発表する。
- ・他のグループの発表を聞き、栃木のイチゴが日本一になった理由を各自がまとめる。

数学科の実践

(ア) ねらい

- ・「習得した知識や技能を活用し、課題を自ら解決する力の育成」

(イ) 指導の実際 1年生「課題学習 碁石の数を求めよう」(「文字と式」の単元の前に)

- ・ある規則性で並べられた5番目の碁石の数を、習得した知識や技能を活用していろいろな方法で求め、「能率的か。わかりやすいか」などの観点でその解決方法を分析する。
- ・よりよいと考えた方法と関連付けて、20番目の碁石の数を求める。
- ・提示課題と違う規則性の問題を自分で作り、それを解いて、解決方法を分類・整理することにより、「規則性が分かれば解ける」という数学的な見方・考え方を育成する。

理科の実践

(ア) ねらい

- ・自ら計画した方法で実験・観察することで、課題を解決する能力を育てる。

(イ) 指導の実際 音速の測定 1年生・「音の性質」

- ・打ち上げ花火や雷の例から、空気中の音速は光速よりはるかに遅く、十分に測定が可能であることを知らせる。そして、その測定方法を考案させ、実際に検証させる。

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

ア 「学習カード」の利用による自己学習能力を高める指導の工夫

(ア) 「学習カード」導入の主なねらい

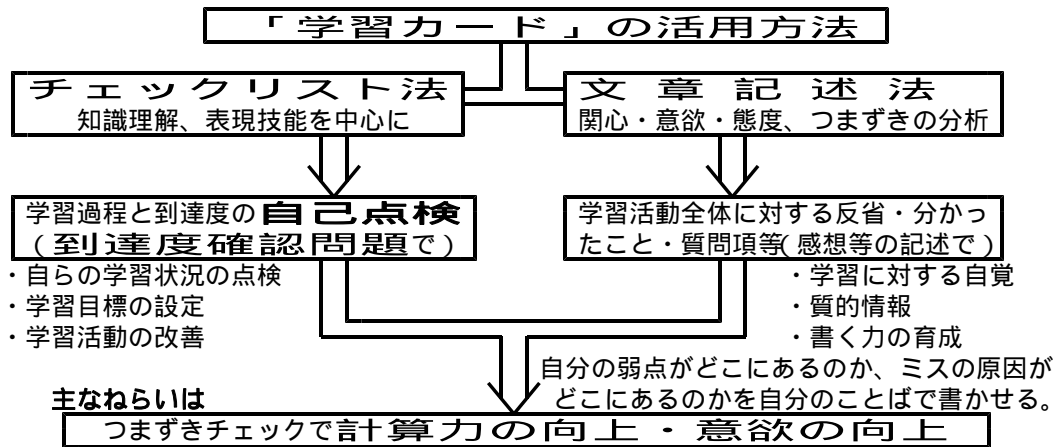
- | | | |
|---------|---|---------------------------------|
| ・生徒のねらい | { | ・学習状況の点検と学習活動の改善に活用する。 |
| | | ・つまずきチェックとその克服に活用する。 |
| | | ・単元全体の見通しを持って計画的・主体的に学習に取り組ませる。 |
| | | ・進歩の後を確認させる。 |
| | | ・自分のための学習であることを認識させ、学習意欲を向上させる。 |
| ・教師のねらい | { | ・個別指導に活用する。(形成的評価の一部として) |
| | | ・生徒の質問やわからなかったことに対して生徒にアドバイスする。 |
| | | ・生徒の変容をつかむ。 |
| | | ・生徒の到達度を確認しフィードバックさせる。 |

(イ) 「学習カード」の活用パターン

下記 a ~ h から教科や単元の特性を考慮し、どのねらいに視点をあてて活用するかよく考え、目的意識をはっきり持って実施する。

- a 学習状況の点検と学習活動の改善に活用(学習到達度問題等でのチェックと分析で)
- b 授業の導入部分で活用(前時の学習内容の想起に)
- c 学習課題の設定に活用(学習カードの中の疑問点や対立した事柄を示し、課題設定に)
- d 学習形態の選択に活用(課題別・習熟度別学習などのグルーピング等に)
- e 個別指導に活用(生徒の質問等に教師がアドバイスを)
- f 単元全体の学習内容の把握や学習計画の作成に活用(単元全体の学習内容を示して)
- g 知識・理解の定着の確認に活用(学習内容を体系的知識としてまとめた穴埋め問題で)
- h その他の活用法(学習に対する意欲化・進歩の跡の確認・生徒の変容の把握等で)

(ウ) 「学習カード」利用の実際(数学科2年:連立方程式 活用パターン a・e・d)



- イ ティーム・ティーチング(以下TTとする)によるきめ細かな指導の工夫
- (ア) TTによる指導のねらい・現状
- ねらい 個に応じたきめ細かな指導により、個々の生徒の学力を最大限に高める。
- ・数学科 2年生(毎時間1C2T)・3年生(週1回1C2T)の授業でのTT
 - ・英語科 ALTとのTT
 - ・音楽科(合唱指導の授業)・国語科(「話す・聞く」の単元)等の特定の単元でのTT(特定単元で、グループ活動等にきめ細かく助言したり評価したりするという試み)
- (イ) 数学科(2年生)の実践
- a 2年生・TTの基本的な学習形態
- ㊦サポート形(一斉指導で) T1は全体、T2は机間指導で個別指導や支援を
 - ㊧グループ分担形1(等質の分担で) T1、T2が各グループを担当
 - ㊨グループ分担形2(1時間の中での習熟度別グループ学習) 生徒の選択により
 - ㊩分離形(学習室と教室の2教室で習熟度別や興味関心別学習) 生徒の選択により
- b 2年生・TTの基本的な単元構想
(節の後半に習熟度別学習を実施し、個に応じたきめ細かな指導を行う)

一斉指導(㊦サポート形で)
(必要に応じて㊧㊨分担形)

・自己診断テスト
・到達度確認問題
(学習カード)

習熟度別学習(㊩分離形)
(生徒の選択による)

節テスト

児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

「学習カード」は、生徒の到達度や変容を把握し、授業の中で全体にフィードバックさせたり、個々の生徒の質問やわからなかったことにアドバイスや支援をしたりと、形成的評価としても有効に活用できた。

(3) 研究の成果と課題

「個に応じた指導のための教材開発」に関連して

自分たちで課題や実験方法を考え、問題解決的な学習を行なうことにより、意欲的に学習に取り組むようになった。達成感や効力感も得られたようである。また、他のグループや友達の調べた結果を聞くことは、多面的・多角的な見方や考え方の育成にも有効であった。

しかし、各教科ともまだスタートしたばかりであり、他の教科の実践なども参考にしながら教科や単元の特性を生かした授業の実践について研究・改善を続けたいと思う。

「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」に関連して

ア 生徒は、「学習カード」の利用により、学習目標が明確になり、主体的に学習するようになった。また、つまずきの分析により、克服に向け努力するようになった。教師は、「学習カード」作成により教材研究が深まり、ポイントをおさえたい的確な授業ができるようになった。さらに、個に応じたきめ細かな指導がタイミング良くできるようになり、指導と評価の一体化という面からも効果的だった。

しかし、「学習カード」の記入やチェックに時間がかかるなど、教科によっては実施方法を十分考えないと生徒も教師も負担加重になってしまうなどの課題もある。

イ 数学の「じっくりコース」では、どの学級も10名前後の少人数であったので、数学が苦手な生徒のつまずきの原因を把握しながら分かるまで繰り返し指導することができた。生徒も基本的な内容はよく理解できたようである。「スピードコース」では、ヒントカードなどを利用しながら、自分のペースでどんどん問題を解き、授業で扱っていないような問題にもチャレンジすることができた。分からない問題も友達同士で相談したり先生に質問したりと、とても意欲的に学習していた。

音楽などでも、きめ細かな指導が可能になり、苦手な生徒のつまずきを支援することができたので、苦手な生徒があきらめずに練習するようになった。また、上手な生徒には、より高度な技術を身に付けさせることができた。そして、生徒たちは、ますます意欲的になり、疑問や意見などを自ら進んで発表できる生徒が増え、能率的に合唱を仕上げることができた。

しかし、教師の授業時数の増加等、教師の負担については、十分考慮しなければならない。

(4) 研究成果の普及の方策
学力向上推進研修会

	日時	平成15年8月1日(金)
	場所	岩舟町立岩舟中学校
	対象	小山市立美田中学校教員の訪問
第1回 学力向上推進研修会	日時	平成15年11月21日(金)
	場所	岩舟町立岩舟中学校
	対象	下都賀地区の各小中学校 (特に普及地区 岩舟・藤岡・野木・国分寺・小山)
第2回 学力向上推進研修会	日時	平成16年1月23日(金)
	場所	岩舟町立岩舟中学校
	対象	下都賀地区の各小中学校 (特に普及地区 岩舟・藤岡・野木・国分寺・小山)

- (5) その他
ねらい
工夫点
- ・ 選択教科における多様なコースの開発、選択教科の授業の研究・実践
 - ・ 一人一人に合った学習を徹底することで、生徒の学力を最大限に高める。
 - ・ 各学年とも、国社数理英の5教科は、「基礎基本コースと発展学習コース」を開設。
 - ・ 実技教科では、興味や関心を重視したコースを開設。(学習意欲を高める指導の工夫)
 - ・ 3年生は、生徒指導上の問題や個に応じたきめ細かな指導が可能になるよう考慮して1～3組と4～6組に分割して設置。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】
「個に応じた指導」を行うことについて、数学科における指導体制の工夫だけで捉えることなく、「学習目標を押さえる わかる授業の展開 自己評価カードで達成状況をチェック 発展的・補充的学習」という一連の流れを通した、全教科に共通する課題として取り組んでいる。特に、主体的な学習を促すために「学習カード」を各教科で開発し、指導と評価の一体化を図りながら個に応じた指導を進めている。